



津波被害を受けた民家の後片付けを手伝うボランティア「八戸市湊町大沢」18日午前11時半ごろ

アイス選手も奉仕 八戸の民家で後片付け

八戸市と福島県郡山市を拠点に活動するアイスホッケーチーム「東北フリーアレイズ」の選手たちが、東日本大震災で被災した八戸市内で民家の後片付けなどのボランティア活動を行っている。18日

は、津波で被害を受けた同市湊町大沢地区で汗を流した。選手たちの多くは、12日開催予定だったアジア・リーグのプレイオフ決勝戦に向け、11日の地震発生時は郡山市の磐梯熱海アイスア

リナーで練習開始直前だったが大会は中止に。選手たちは14日、豊後生活している八戸市にバスでもよく戻ったが、「被災者のために何かできないか」と考え、同市の災害ボランティアセンターに登録したという。

18日は選手8人が午前9時半ごろから約5時間にわたり、床上浸水した民家の片付けを支援。壊れた洗濯機を運び出したり、スコップで家の周りにたまっていた泥を取り除くなど、一生懸命に体を動かした。ボランティアを通じて依頼した角和枝さん(44)



この記事の動画はウェブ東奥と東奥NEETで掲載しています。

八戸市災害ボランティア

きょうから募集停止

被災者からの依頼上回る

八戸市災害ボランティアセンターは18日、東日本大震災の被災者支援に取り組むボランティアの募集を19日から当面の間、休止すると発表した。ボランティアを希望する登録者が、被災者からの依頼数を大幅に上回り、活動に参加できない待機者が増えているため。被災者側からボランティア派遣を求める依頼については、引き続き申し込みを受け付ける。

同センターは被災後の14日、八戸市社会福祉

協議会が開設。18日現在77人が登録。被災者の依頼を受け、これまでに延べ656人が市川、白銀、湊の3地区を中心に活動している。休養中の高校生を中心に予想を上回る希望者が集まった。一方で被災した家屋から家具や荷物を屋外に運び出す作業が一段落しつつあり、被災者側からボランティア派遣を求める依頼数が減ってきている。

八戸市社会福祉協議会の浮木隆事務局長は「多くの人が参加し

てくれて本当に助かっている。今後は避難所から帰宅へ戻るお年寄りの手伝いなどにボランティアを振り分けていきたい」と取材に答えた。

ボランティア 県も待って

現地態勢整わず

東日本大震災を受け、県には市民から被災地でボランティア活動をしたい、「救援物資を送りたい」という問い合わせが相次いでいる。しかし、被災地の受け入れ態勢などの状況から、現在は個人

大震災ドキュメント

18日 6時20分ごろ 東京電力は栃木、群馬、埼玉、千葉、神奈川、静岡6県の一部約250万世帯で計画停電を開始
7・00 東北電力は午前中の計画停電を見送り

9・00 警察庁集計によると、死者は6405人、行方不明者は1万259人
9・17 総務省消防庁は、東京消防庁が福島第1原発に特殊災害対策車の部隊など139人を同日未明、派遣したと発表

は「男子が少なく片付けが大変だったので本当に助かる」とほっとした表情。八戸市出身の白鳥洋選手(27)は「大会中止は残念だが、今できることをしたい」、プロ

チームを運営する東

北アイスホッケークラブは同日からインターネットでアレイズのパソコン用壁紙画像を販売し、売上金全額消費税を除くを義援金として日本赤十字社に

送ることを決めた。1枚1050円(税込)のみ。4月30日までの予定で、購入はインターネットサイトのスマートフォンサイトから

部でも個人や物販業者、義援金を出している。同センターは、沙奈さんはりしている

救援

の申し出は受け付けられない状態。県は「今は状況を真守してほしいと呼び掛けている。14日に設立した県防災ボランティア情報センターには17日まで県内外からボランティアや救援物資に関する問い合わせが136件あった。日赤東支

東日本大震災への救援で県は18日、民間企業を呼び寄せ、受付窓口を開設し、物資の陸上輸送を地元で一元化した。

両ホ 津波で被災してしまっただけでなく、沿岸部で、復旧作業を支

けに、市営草などを家出すこと